

Ⅱ 各教科の正答率、誤答例及び所見

1 国語

(1) 正答率

問 題	配 点	正 答		一部正答		誤 答		無 答		通 過 率 率= $\frac{\text{得点計}}{\text{(人数}\times\text{配点)}}(\%)$	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	4	352	73.9	0	0.0	124	26.1	0	0.0	73.9
	問 2	4	345	72.5	0	0.0	130	27.3	1	0.2	72.5
	問 3	6	141	29.6	276	58.0	37	7.8	22	4.6	63.6
	問 4	6	143	30.0	257	54.0	59	12.4	17	3.6	56.9
	問 5	5	350	73.5	0	0.0	121	25.4	5	1.1	73.5
2	問 1 (1)	2	128	26.9	0	0.0	306	64.3	42	8.8	26.9
	問 1 (2)	2	157	33.0	0	0.0	279	58.6	40	8.4	33.0
	問 1 (3)	2	376	79.0	0	0.0	87	18.3	13	2.7	79.0
	問 1 (4)	2	181	38.0	0	0.0	185	38.9	110	23.1	38.0
	問 1 (5)	2	432	90.8	0	0.0	20	4.2	24	5.0	90.8
	問 2	3	301	63.2	9	1.9	158	33.2	8	1.7	64.2
	問 3	3	40	8.4	0	0.0	433	91.0	3	0.6	8.4
	問 4	3	452	95.0	0	0.0	24	5.0	0	0.0	95.0
	問 5	3	403	84.7	0	0.0	73	15.3	0	0.0	84.7
3	問 1	4	310	65.1	0	0.0	166	34.9	0	0.0	65.1
	問 2	6	16	3.4	234	49.2	161	33.8	65	13.7	27.9
	問 3	4	144	30.3	0	0.0	303	63.7	29	6.1	30.3
	問 4	6	27	5.7	149	31.3	159	33.4	141	29.6	20.8
	問 5	5	192	40.3	0	0.0	261	54.8	23	4.8	40.3
4	問 1	3	433	91.0	0	0.0	32	6.7	11	2.3	91.0
	問 2	3	277	58.2	56	11.8	101	21.2	42	8.8	64.6
	問 3	3	48	10.1	48	10.1	316	66.4	64	13.4	14.9
	問 4	3	166	34.9	0	0.0	304	63.9	6	1.3	34.9
5	16	41	8.6	423	88.9	6	1.3	6	1.3	67.0	

(小数点第2位以下を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

今回の学力検査の平均点は、56.0点であった。標本の通過率は55.3%で、標準偏差は15.05であった。

① 文学的な文章を理解する力をみようとした問題である。大問全体の通過率は67.1%であり、昨年度と比較して9.3ポイント下がった。

問 1 文章の表現上の工夫に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は73.9%であった。文脈の中における語句の効果に注意し、内容を的確に理解させる指導の継続が求められる。

問 2 登場人物の描写に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は72.5%であった。会話を手掛かりに、登場人物の相互関係や場面の展開、登場人物の心情を的確に理解させる指導の継続が求められる。

問 3 登場人物の心情を読み取り、適切に表現する力をみる問題で、通過率は63.6%であった。誤答としては、「一人で大事に考えて決められなかった」「武器のように振りかざした」といった、「後悔」の具体的な内容を欠いたもの、指示された文脈にあてはまらないものが多かった。登場人物の心情を正しくとらえて適切に表現させる指導の充実が求められる。

問 4 登場人物の心情を的確にとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題で、通過率は56.9%であった。誤答としては、「祖父の期待を苦しい」と感じていることや「今の自分」と「祖父の理想」の隔たりについて触れていないものが多かった。登場人物の言動から内容を読み取らせるとともに、条件に応じて適切にまとめさせる指導が必要である。

問 5 場面の展開に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は73.5%であった。場面の展開や登場人物の行動から内容を理解させる指導の継続が求められる。

- 2] 基本的な漢字の読み書きや、基礎的な言語能力をみようとした問題である。大問全体の通過率は58.7%であり、昨年度と比較して7.7ポイント下がった。
- 問1 基本的な漢字の読み書きについての問題である。(1)の「稚拙」については、「ちしゅつ」と誤ったものが多く、「出」の音から類推したと思われる。(4)の「警笛」については、「笛」の「由」が「田」であったり、「警摘」のように漢字の音から考えた誤答が見られた。読みについては音訓から判断するという基本を押さえつつ、「拙」(せつ)「笛」(てき)などのように通常の音とは異なる新たな語彙を獲得していく指導が必要である。
- 問2 文の組み立て(係り受け)についての理解を問う問題で、通過率は64.2%であった。誤答としては、「思い出が」の「が」を抜いてしまったものや「過ごした頃の思い出が」のように複数の文節で答えたものが多かった。文の成分の係り受けの指導に加え、文節のまとまりや単語との成分の違いを確実に定着させる指導が必要である。
- 問3 用言(活用のある自立語)についての知識を問う問題で、通過率は8.4%であった。誤答として最も多かったのがウであった。「欲しくない」の「ない」という補助形容詞を助動詞と考えてしまったことが考えられる。「ない」のような紛らわしい単語の識別についても、例文などを効果的に用いて、繰り返し系統的に定着させる指導が必要である。
- 問4 敬語の適切な使用法についての理解を問う問題であり、通過率は95.0%であった。概ねよく理解されている。誤答としては、ウ「拝見なさって」が最も多く、「拝見」という謙譲表現を尊敬表現と取り違えたと考えられる。日常会話における敬語の用法に関しては、言葉を知っているだけでなく、適切に使用できる段階まで指導の定着を図りたい。
- 問5 俳句の中の季語についての理解を問う問題で、通過率は84.7%であった。イ「炎天」を夏の季語と理解できなかつたり、ウ「名月」を秋の季語と理解できなかつた誤答が見られた。季語のように季節を表す言葉と、日本の季節や風習、伝統に関する知識を広げ、語彙を豊かにする指導が必要である。
- 3] 説明的な文章を理解する力をみようとした問題である。大問全体の通過率は35.0%であり、昨年度と比較して14.4ポイント下がった。
- 問1 文章に書かれている内容を正しく読み取り、理解する力をみる問題で、通過率は65.1%であった。音楽についての前後の記述から、論理の展開を読み取る必要がある。
- 問2 表現上の工夫に注意して内容を的確にとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題で、通過率は27.9%であった。「特定の文化の中で時間をかけて形成されるもの」と「別の時空に移動されても新たな別の文化文脈にはめこまれる」の二つある解答要素のうち、どちらか一方のみに言及した解答が多かった。直前の文章を読み取り、その要素を抜き出して表現する力をつけさせる指導が必要である。
- 問3 事実と意見などを読み分けることで、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は30.3%であった。誤答としては、「それぞれが」が最も多く、次いで「自分が快適」であった。傍線部の内容を正確に理解する力に課題がみられた。文章の中の筆者の考えや意見と事実を読み分ける力をつけさせる指導が必要である。
- 問4 文章の論理の展開の仕方をとらえることで内容を理解し、条件に応じて適切に表現する力をみる問題で、通過率は20.8%であった。誤答としては、問題の内容をとらえきれず、解答要素を含まないものや、「歴史的経緯や人々の記憶を大切にすること」という要素のみに言及した解答が多かった。文章を再構成し、記述できる力をつけさせる指導が必要である。
- 問5 文章の構成や表現の仕方についての理解をみる問題で、通過率は40.3%であった。文章の構成や論理の展開、表現上の特徴などに留意させる指導が必要である。
- 4] 古典を理解する基本的な力をみようとした問題である。大問全体の通過率は51.3%で、昨年度と比較して15.2ポイント下がった。
- 問1 歴史的仮名遣いについての理解をみる問題で、通過率は91.0%であった。歴史的仮名遣いへの理解度の高まりがうかがえる。古文を音読し、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる学習活動を行っていくことが求められる。
- 問2 文章に書かれている内容を、叙述に基づいて的確にとらえる力をみる問題で、通過率は64.6%であった。誤答としては、傍線部の叙述から離れてしまったことに起因するものが多かった。文章の展開に即し、場面を確認しながら読む力をつけさせる指導が必要である。
- 問3 登場人物の思いなどをとらえ、内容を理解する力をみる問題で、通過率は14.9%であった。誤答としては、文脈から読み取れる内容と、句に込められた登場人物の思いを正しく読み取ることができなかったことによるものが多かった。文章の展開に即し、丁寧に読む力をつけさせる指導が必要である。
- 問4 古典に表れたものの見方や考え方をとらえ、内容を理解する力をみる問題であり、通過率は34.9%であった。文章の展開を確かめながら内容を整理して読むことに加え、多くの作品に触れることで、古典の世界のものの見方や考え方をとらえさせる指導が必要である。

- 5 「百年後の日本に残したいもの」に関する3つの意見の中から1つを選択し、自分の立場や選んだ理由、伝えたい事実や事柄をふまえながら、構成を工夫して書く力をみようとした問題である。通過率は67.0%であり、昨年度と比較して6.1ポイント上がった。実際の自然体験、修学旅行、伝統行事や祭礼での自らの見聞を取り上げて意欲的に書かれたものが多く、無答率は1.3%であった。一方で、誤字・脱字等の表記に誤りのあるもの、主語・述語の関係が不適切なもの、話し言葉で記述しているもの、原稿用紙の使い方が不適切なものなどが減点の対象となった。多様な考えができる事柄について、自分の立場を決めて、根拠と理由を明確にしなが意見を書く指導が必要である。

トピック

～文章の内容を的確に読み取り、
要約したり、詳述したりする力を養う～



問題	正答へのプロセス～記述する内容とその条件または注意	通過率 (%)
1 問3	歩の心情の変化を表している部分を文章中から探し、40字以上、50字以内でまとめる。	63.6%
1 問4	祖父の言葉に対して、歩がどのように感じたのかを表した部分を文章中から探し、20字以上、30字以内でまとめる。	56.9%
3 問2	筆者が音楽とはこういうものだと説明している部分を文章中から探し、45字以上、55字以内でまとめる。	27.9%
3 問4	筆者の考えをわかりやすく説明している部分を文章中から探し、40字以上、50字以内でまとめる。	20.8%
4 問2	「白妙になりけり」とはどのような様子なのかを説明する。	64.6%
5	「百年後の日本に残したいもの」について、3つの意見の中から1つを選び5つの注意に従って自分の考えを書く。	67.0%

上の表は、記述によって解答する問題とその通過率を示したものである。これらの記述による問題の通過率は昨年度と比較して全体的に下がった。学校現場で読書活動が推進されていることの現れとして、文学的な文章である大問1の問3、問4に関しては、昨年よりも通過率が高かった。しかし、説明的な文章である大問3の問2、問4に関しては、通過率が大幅に下がった。正答を導くためには、①問題文の指示をしっかりと読むこと。②問題文の指示に従って、文章中から適切な部分を読み取ること。③問題文の指示の条件や注意に従ってまとめること。の3つの過程をふまえた学習が必要になる。

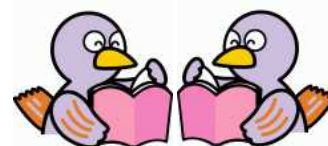
受検生の誤答を分析すると、文章の内容を正確に理解して詳述する問題のときに、条件や注意に従って、要約したり、違う言葉に置き換えたりすることができずに、文章の中からそのまま抜き出して解答してしまう受検生が少なくないことがわかる。また、その他の誤答として、主語・述語の関係が不成立のもの、文章にねじれがあるもの、助詞が適切に使用されていないもの、書き言葉ではなく話し言葉で書かれているもの、誤字や脱字があるもの、文末表現に常体と敬体が混在しているものなどが見られた。

〈指導改善のポイント〉

～言語環境を整え、豊かな言語感覚を育もう～

中学生に求められる言語能力は、社会生活に生きて働くよう、一人一人の生徒が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて、適切に表現したり、正確に理解したりする力として育成することが大切である。生徒の豊かな言語感覚は、国語の授業だけではなく、学校生活の様々な場面での言語活動を通して、優れた表現との出会いを重ねる中で身に付けていくものであると考える。

そこで、実生活の中で、TPOに即した言葉の特徴やきまりに対して意識的に取り上げて考えさせる場面を設定したり、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に着目させる機会を意図的につくるのが重要である。また、社会生活に必要とされる発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評などの言語活動を意図的に取り入れ、課題設定や取材（情報の収集）、校正、記述、推敲させ、生徒が書いた作品の相互評価を繰り返すことによって、生徒の言語感覚はさらに豊かになると考える。



豊かな言語感覚を醸成させながら、生徒の言語表現に即した語彙を増やし、要約したり、詳述したりする力を育成することが強く望まれる。